

「アクティブシニアとは私のこと」 シルバークレッジのテーマを追求して北欧まで〜

神戸へゆうゆうの里 堀江 紀代子様（78歳）平成28年 入居時一人入居



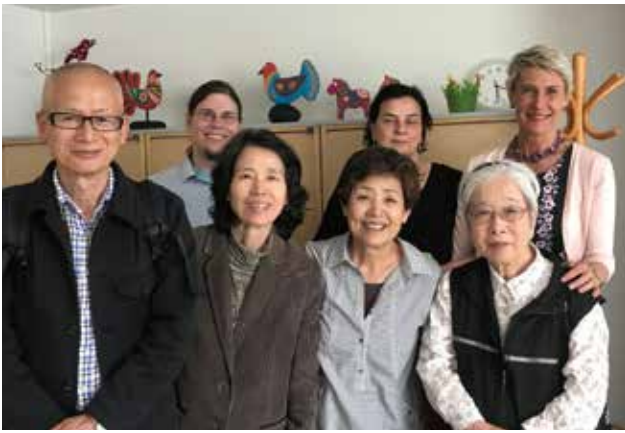
男3兄弟の総領娘という存在

末っ子の弟とは13歳違うのでよく子守をし、他の弟達とも遊んだり行動を共にしたりして面倒をみました。弟達が家庭を持つてからもお互い困ったことがあれば援助をしあったものです。母親が亡くなってから年に1度、3組の弟

達夫婦を一泊旅行に誘っています。弟の嫁も、嫁というより妹の感覚。彼女たちもよく私のことを気にかけてくれ、私が喜寿の時には、弟達が旅行に招待してくれました。子供の頃は両親の兄弟の家によく泊まりに行き、従妹達と楽しく過ごしていました。兄弟は仲良くするもの、助け合うもの、ということを、かわいがってくれた父や伯父から教わって育ちました。

入居を祝福してくれた弟たち

神戸市の職員として長年勤務



し、両親を在宅で看取りました。介護の仕組みを勉強したり、在宅医療もフルに活用したりして一人で介護しました。しかし近所の人からたくさん声をかけてもらったし、弟達もよく顔を見せてくれ、また相談できる友人もいたので辛いと思っただけではありませんでした。本当に人間関係に恵まれていると感謝できました。

母（92歳）を見送った後自分の老後を考え始めました。弟達には迷惑をかけたくないと思い、いろいろな所に見学に行きました。へゆうゆうの里の山や自然、特に遊歩道が素晴らしく、何よりも近かったシルバークレッジにも近い。とても自由な雰囲気、皆が明るく挨拶を交わすのも気持ちいい。全体が自分と相性がよい施設だと実感しました。ここに入居する最後の決断の時、引越の時、全て弟達が手伝ってくれました。「安

心したよ」という弟の言葉を聞いて本当に嬉しく思いました。

もっと学んで人の役に立ちたい

学ぶことが好き。旅行が好き。「未知を知る」という感じが大好き。在籍中のシルバークレッジは学びながらボランティアの心を育ててくれます。今年の海外旅行は、卒論（在宅介護）の研修を目的に北欧まで行きました。そこでは高い税金を払うものの、施設・在宅のいずれを選んでも高齢者は少ない負担で安心の介護が受けられます。その素晴らしさに感動しました。また研修生の奥様で認知症の診断を受けた方が同行されていました。時折私に優しい振る舞いをしてくれるのを不思議に思っていました。が、ずうっと一緒に過ごすうちに、認知症になっても本来の「優しい自分」をしっかりと持っていることが見えてきました。これは研修中、私の気づきでした。それ以来、もっと認知症のことも勉強して深く関わりたいと思うようになりました。できる限りこれからも学び続け、人の役に立っていききたいと思っています。